

創政会先進地視察報告書

1 視察先・目的

- 長崎県大村市
「大村市産業支援センター（O-biz）の取り組みについて」
- 佐賀県小城市 台風にて中止
- 福岡県福岡市
「起業家教育の取り組みについて」

2 期 間

平成30年7月2日～4日

視察報告書

日 時	平成30年7月2日(月) 午後1時から午後3時まで
視 察 先	長崎県大村市
視 察 項 目	大村市産業支援センター(O-biz)の取り組みについて
視 察 者	創政会(伊藤清一郎、竹内慎治、林 秀人、伊藤正治、渡邊眞弓、伊藤公平、富田一太郎、江端菊和、勝崎泰生)
視 察 内 容	<p>大村市は、平成23年10月に大村商工会議所・長崎県中小企業同友会大村支部からの要望を受け、中小企業振興基本条例制定推進協議会を設立。24年11月に同協議会から「条例の早期制定についての要望書」を受け、25年12月に中小企業振興基本条例を制定。同要望書には産業支援センターの設置についての要望もあり、視察等を重ね、富士市産業支援センター(f-Biz)をモデルとした産業支援センターの設置を決定。プロポーザル方式によるセンター長の募集を経て、市が用地買収した商店街内の旧百貨店跡地に、29年7月、大村市産業支援センター(O-biz)を開設し、大村市内を中心に産業支援を開始した。</p> <p>「お金をかけずに、知恵を出す」をモットーに中小企業者、個人事業主、農林水産事業者、これから起業を考えている方を対象に売上拡大、販路開拓、起業の可能性について相談、提案などのサポートをしている。</p> <p>相談ではビジネスコンサルティングサービスを提供すべく、経営の問題点を指摘するだけでなく、企業の強みを伸ばす指導を行っている。素晴らしい技術や商品を持っている地元の中小企業の相談内容やその思いをじっくり聞き、気づかなかったセールスポイントを明確にし、お金をかけずに売り出していく手法を指導し、実績を上げている。</p>
所 感	<p>f-Bizモデルの産業支援センターは、売り上げを伸ばすビジネスコンサルティングを無料で行うことが特長である。大村市産業支援センター(O-biz)においても、f-Bizモデルの産業支援センターとして、質の高い売上向上に役立つビジネスコンサルティングを行うことで地域の活性化に多大な貢献をしていた。また、大村市産業支援センターの年間予算は約2,700万円と、効果を考えれば少ない予算額であり、極めて高い費用対効果を上げていると言える。</p> <p>同センターの設置のきっかけは、大村商工会議所と長崎県中小企業同友会大村支部からの中小企業振興基本条例策定要望の中に、産業支援センターの設置についての記述があったことによるものであった。中小零細企業や個人事業主等は公的な支援なしでは、大きなステップアップを図ることができず、本市が抱える商工業の問題解決への投資として、産業支援をもっと考えるべきと強く感じた。市、商工会、農業従事者、金融機関等による産業振興会議の設置により、市の支援体制の拡充、各産業団体の活性化を図るべきだと痛感した。</p>

視察報告書

日 時	平成30年7月4日（水） 午後1時から午後3時まで
視 察 先	福岡県福岡市
視 察 項 目	起業家教育の取り組みについて
視 察 者	創政会（伊藤清一郎、竹内慎治、林 秀人、伊藤正治、渡邊眞弓、伊藤公平、富田一太郎、江端菊和、勝崎泰生）
視 察 内 容	<p>福岡市が平成21年10月に「新しいふくおかの教育計画」を策定し、目指す子どもの実践的な態度として掲げている「立志」やキャリア教育に関連する社会人を活用した授業の充実を図ることを通して、福岡で学ぶ子どもたちが将来に夢と希望を持ち、将来的な起業を促進することを狙いとしている。この計画ではアントレプレナーシップ（起業家精神）教育を実施している。</p> <p>事業目的は、福岡市の子どもたちが将来に夢と希望をもち、自らの人生を切り開いていこうとするチャレンジマインドの育成を推進することである。そのうちの「CAPSプログラム」では、平成28年、基幹校20校でグループディスカッションを5時間のカリキュラムで設置し、意志決定力・チームワーク・リーダーシップ・寛容性等の育成の取り組みを実施した。29年には全小学校で実施をしている。また、中学校では、福岡を中心に活躍する著名人、起業家やプロスポーツ選手等の講師を招聘し、身近なロールモデルとして体験活動や講話を行い、ファシリテーターによる全員参加型の夢の授業を行い、未来を切り開くワークショップを実施している。</p>
所 感	<p>福岡市ではアントレプレナーシップ教育の推進のため「夢の課外授業」として主に地元の著名人を講師に招いている。10校の小学校でそれぞれの体験をもとにそれぞれの立場で成功した方の話を聞き、「ホンモノ」に触れる機会をつくっているとのことであった。子ども達の経営感覚が、新しい起業に結びつくような事業連携も面白い事業となると感じた。</p> <p>中学2年生時には「未来を切り開くワークショップ」として福岡を中心に活躍する起業家やプロポザルで募集した民間のファシリテーターを中心に生徒同士のディスカッションを行い、チャレンジマインドの高揚に向けた事業展開を行っている。これら一連の事業を通じて、福岡市のキャリア教育の系統性を担保できるようになったということである。子どもたちも夢に挑戦することの大切さを考えるようになったことや、全校実施等の取り組みにより、教師自身の意識の高揚が図られるなどの成果も上がったということであった。まだ始まって3年目の事業であり今後課題なども出てくるものとは思われるが、現時点において非常に参考になることが多い視察となった。</p> <p>本市においても佐布里小学校においてキャリア教育の実践の中で、起業に力を入れている。地元の将来のために働ける子どもたちをふやすことにより、郷土愛の醸成と若者世代人口の増加の一助となると感じた。子どもたちを大きく育てる仕組みと全市的に取り組める環境づくりを提言していきたいと考える。</p>